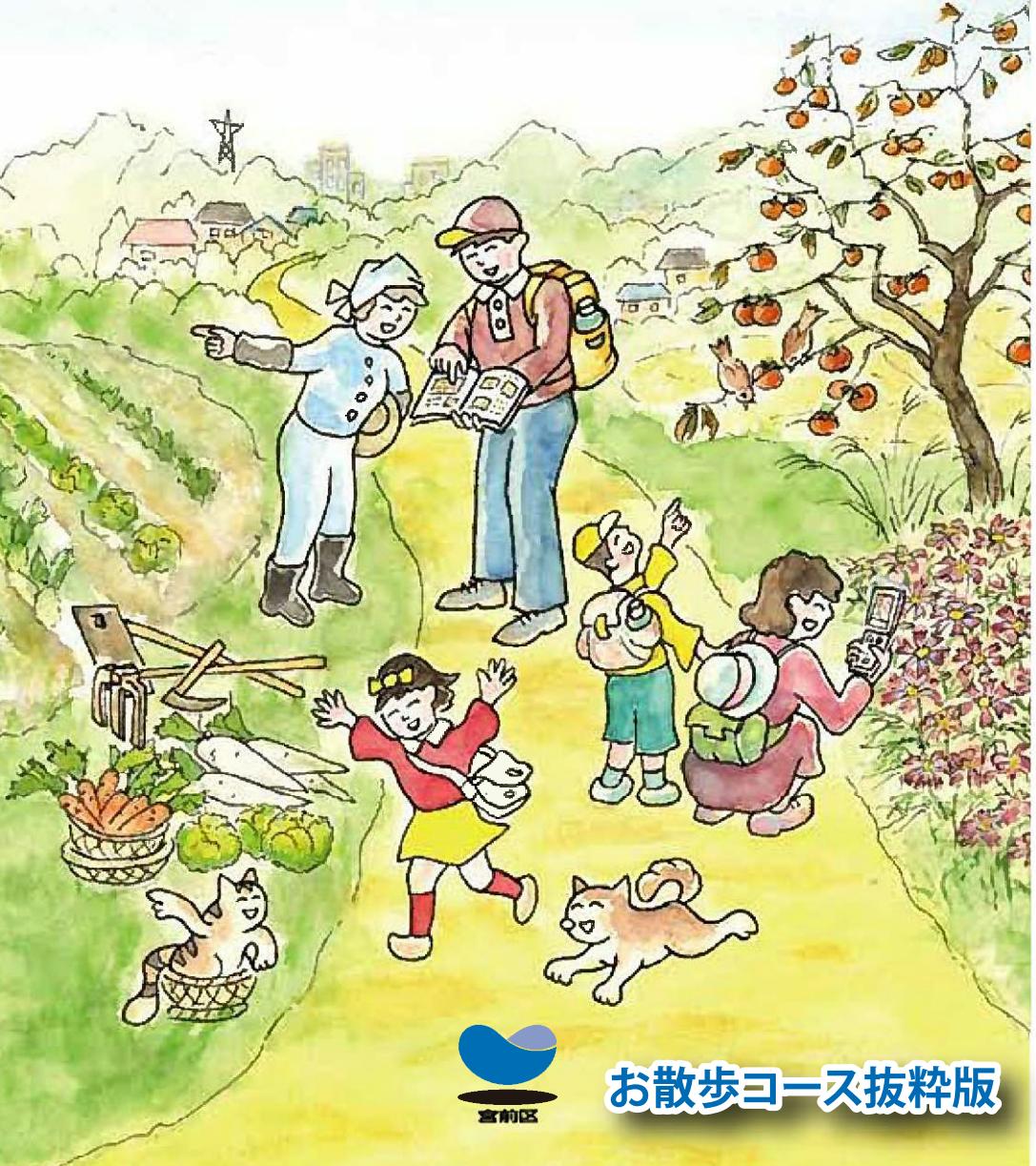


# 宮前区ガイドブック

ガイドブック片手に出かけよう



お散歩コース抜粋版

## ● 宮前区について ●

宮前区は昭和57年7月、高津区から分かれ  
て誕生し、川崎市では一番新しい区。平成24  
年に30周年を迎えた。人口は約22万人(平成  
24年8月現在)、川崎市7区のうち中原区に次  
いで2番目に人口が多い。面積は18.6km<sup>2</sup>、川  
崎市では4番目の広さで、東京都の新宿区と  
ほぼ同じ大きさの区である。

川崎市北西部のなだらかな丘が続く多摩丘  
陵の東の端に位置する。区の北は多摩区・高津  
区、東は高津区、西は麻生区、そして南は横浜  
市都筑区・青葉区に接している。区の西端、潮  
見台あたりが区内で一番標高が高く106m、昔  
はそこから横浜方面の海が見えたという。

区内には3つの川が西から東に流れてい  
る。一番北を流れる平瀬川は水沢地区を源  
流とし、菅生・平を流れて多摩川に合流する。  
区内の中心部を流れる矢上川は犬蔵周辺を  
源流とし、尻手黒川道路沿いに馬絹・野川を  
流れ、日吉で鶴見川に合流する。一番南を流  
れる有馬川は鷺沼4丁目(鷺沼谷・さぎぬまや  
と)周辺を源流とし、有馬を流れ、高津区千  
年の五反田橋で矢上川と合流する。



緑ゆたかな平瀬川上流

これらの川に挟まれて、宮前区は丘陵や坂、  
谷戸(やと)などで構成された起伏に富んだ  
地域であり、「台・沢・川・沼」、またそれらに栽培  
された稗(ひえ)、自生する菅(すげ)、あるいは  
放牧されていた馬などの付いた地名がある。

## ベッドタウンとしてのまち宮前

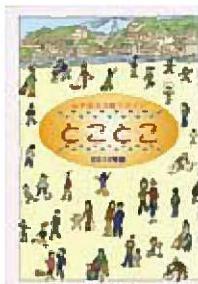
宮前区は東京都心から30km圏内にある  
ことから住宅向けに土地区画整理事業が進  
められ、東急田園都市線3駅・東名高速川崎イ  
ンターチェンジ・第3京浜道路などの交通の  
利便性とあいまって、東京のベッドタウンと  
しての役割を果たしている。宮前区の夜間  
人口に対する昼間人口の比率は約70%で、  
市の他区より一段と低く(川崎市全体平均は  
約87%)ベッドタウンとしての性格がうか  
がえる。

## 子どもが多いまち宮前



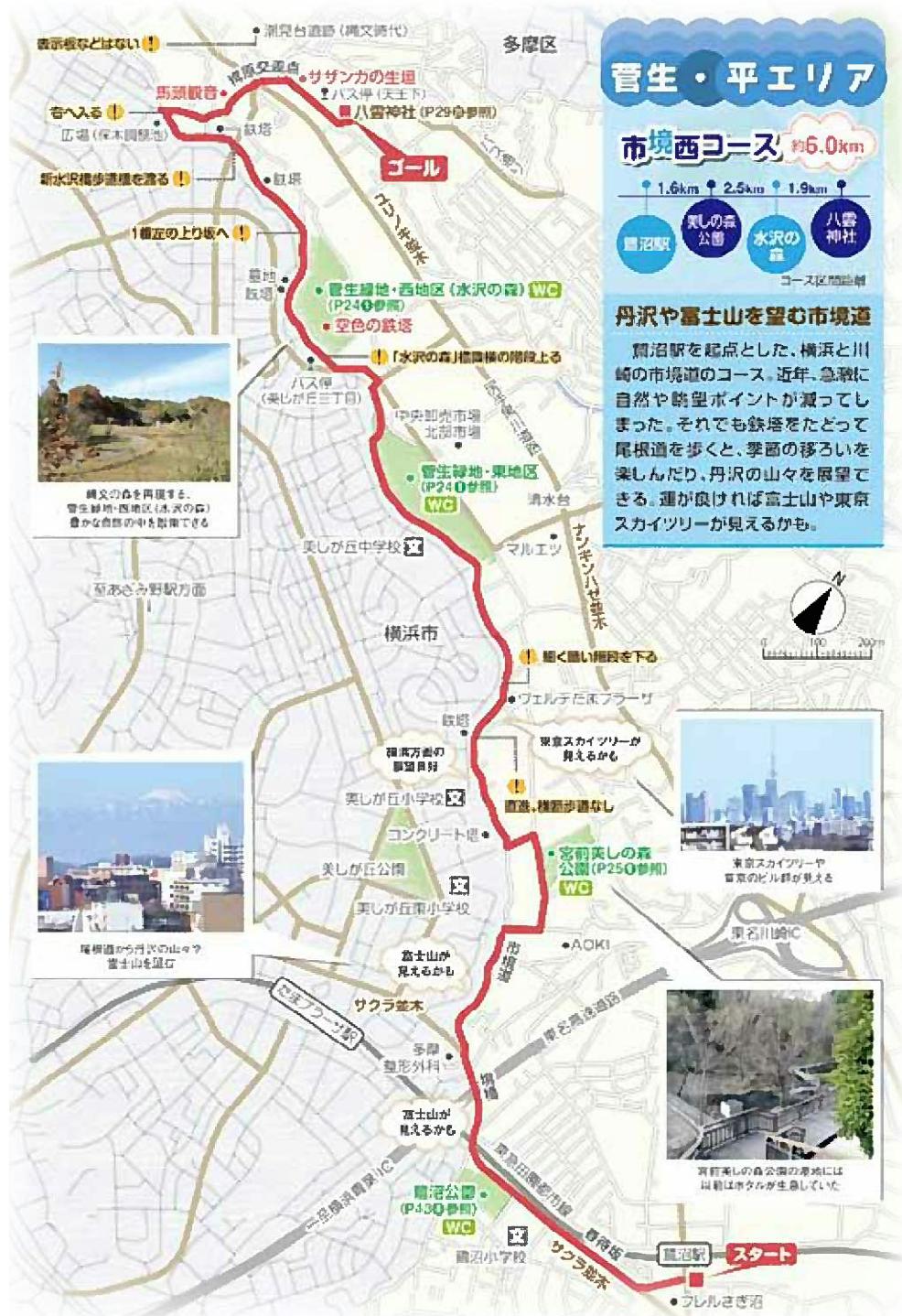
冒険あそび場づくりの活動

宮前区住民の平均年齢は41.2歳(平成23  
年)、7区の中で4番目の高さである。しかし  
年少人口(0歳~14歳)は14.9%(平成23年)  
と、子どもたちの割合は川崎市の中で最も  
高い区である。休日などには、小さな子ど  
もの手を引く家族の姿をよく見かける。ま  
た子育てグループ活動が活発で、公園、こど  
も文化センター、宮前市民館、地域子育て支  
援センターを拠点として活動している。



子育てガイドとことこ

「子育てガイドとことこ」は、子育て情報  
が満載で、子育てを支  
援することを目的  
に、現役ママや地域  
の方々、子育て関係  
機関が一  
緒になり区  
民協働で作られた。  
区役所こども支援室  
で入手できる。





-4-



-5-

土橋の八幡坂は急傾斜のうえ湧水(わき水)があり、手車の運行に難儀した。しばしば土砂崩れを起こし、迂回ルートを変更している。御市開発の坂は消滅し、その東側40mほどの場所に新道が作られている。坂の名跡は、坂にある八幡神社に由来する。

## 東海道の裏街道の歴史を偲(しの)ぶ

大山街道は矢沢往還ともよばれ大山發揮後の富士山、富士發揮後の大山詔でにも利用されていた。矢沢往還は江戸へ物資を運ぶ役割を果たしており、駿河の茶・綿、伊豆のワサビ・シイタケ・干し魚、秦野からは煙草、厚木からは相模川の鮎などを江戸に運んでいた。

## 大山街道コニス 約5.8km

2.8km 1.1km 1.9km  
幌が谷駅 宮前平駅 鳴沼文部省 うとう坂下  
コース区間距離

坂の上部にならほど急傾斜で道幅が狭かった。坂の半ばにある土手からは清水が湧(わき)出し、旅人の喉を潤していた。坂の蓋には「下の店」があり、湯・地酒・草鞋(わらじ)などを売っていた。その脇には準西園毛三十三ヶ所観音雪場第26番札所があった。明治時代中盤に長雨のため坂が崩れ通行が困難になったため、高山から旧国道246号を利用して宮崎に迂(う)回していた。高山からは、秋から冬にかけた霜天の日に品川の海や多摩川の单掛け角が眺望できたといふ。

元禄元年(1688)  
坂の地蔵尊、阿弥陀  
仏がある。疫病で亡くなったり幼児の供養と幽霊回復を祈って建てられた。

道標を兼ねており、右:王釋寺道、左:大山道、文化2年と記されている。以前、有馬さくら公園付近の王釋寺との分岐点にあった。

牛久後(うとう坂)は急傾斜のうえ手から湧(わき)水があり、手車の通行に難儀し度押しを行った。坂の中間に馬の医者である柏原や蟹井、坂の脇には夏子・愛・草鞋(わらじ)を売る「出店」があり、季節には草堂屋も店を開いた。坂の半腰からは、鎌倉街道の笠置は土橋を理由して構成(すがた)山に向っていた。天保2(1831)年、鷹巣單山は大山街道を厚木まで歩いているが、途中、「出店」に立寄り鶴田宿までの道程を尋ねている。その時、单山は有馬の坂を描いたが、そのスケッチは「源相日記」に記されている。坂の名跡の由来になった八幡社は「椿社」といふ椿の由来になつた八幡社に移されている。

横浜市



## 宮前区の大山街道

# 豆知識



宮前区内の大山街道は、昭和30年代以降に始まった大規模な都市開発のため多くの区間が消滅した。宮崎大塚から庚申坂上、小台坂から駒沼、有馬の八幡坂にルートが残されている。しかし、道路は拡幅され坂は緩やかに改良されているため、ガイドブック無しには歩くことが難しい。それでも馬組の三叉や有馬は詳細に観察すれば民家が建てられた向きから、在りし日の大山街道を偲(しの)ぶことができる。宮前区は多摩丘陵に位置するため、庚申坂・佐野坂・土橋の八幡坂・小台坂・有馬の八幡坂が連続し、いずれも開発前は急傾斜であり、大山街道の難路であった。

### 矢倉沢往還

矢倉沢往還の大山街道は、30以上ある大山道を代表する道である。起点の赤坂御門から大山まで70kmの道程である。渋谷・用賀を経たあと二子渕口・芦田・長津田・下高井戸・厚木などの宿場を通り大山に達していた。途中、多摩川は二子の渡して、相模川は厚木の渡して渡っていた。江戸から大山までは通常2泊3日の行程であった。大山には雨乞い・音作・音漁・藤袴繁盛・航海安全・東内安全などを祈願した。盛時には福島県の豊城・新潟県の魚沼・長野県の佐久・松本地方・山梨県・静岡県・伊豆諸島から参詣者が訪れた。

矢倉沢往還は、慶長6(1601)年に徳川家康が整備した東海道の宿往還である。東海道は大名・武士が多く使い表街道的な存在であったのに對し、矢倉沢往還は農民・商人が多く通行する道であり、裏街道的な存在であった。しかし、豊河の茶・桜、伊豆のワサビ・干し魚、原野の煙草・相模川の鮎などの物資を江戸に供給する重要な役割を果たす生活道路であった。



## 駒沼・宮崎エリア

### 馬組コース

約4.2km



### 矢上周辺歩き

矢上川と尻手川道路を中心に広がる北部と南部の丘陵を歩き、馬組地域のほぼ半分を歩くコース。北部丘陵地域にある馬組古墳は7世紀のもので、横穴式石室は市内最大の規模。馬組の「花づくり」の伝統を伝える温室である。







## 宮前区内にある石造物の豆知識

### 豆知識

- 橋碑(いたび)**:鎌倉時代に発生したもので、死者の供養に建てられた玉碑(きょう)印塔や五輪塔より手短であることから武士たちに好まれた。有馬の鎌王寺にある振碑は建武4年(1337)作鎌が刻まれ、区内174基のうち最大のもの。
- 馬頭(ばとう) 番塔(ばんとう)**:馬は農耕をはじめ畜物の運搬に大きな働きをした。馬が亡くなると、その馬が曰ころ駒取(こじ)いんだ場所に石塔を建て祀(まつ)られた。像の頭に馬の頭を彫ったものや、「馬頭報音」と記したものがある。区内には35基が確認されている。
- 地神(じじん)**:春・秋分に近い度(つちのえ)の日は土を動かさない禁風の習慣があった。この日は農家の神である地神に普段は祈願する機会が持たれた。区内には8基ある。
- 地蔵尊(じぞうそん)**:子どもの成長や村の安全を見守ると言う。区内には子育地蔵もある。
- 二十三夜塔(に十三夜)**:二十三夜の月の出待ち、五輪塔や子供繁榮を祈願した。区内には3基あるが、いずれも「二十三夜」の文字が彫まれている。

●**番塔(ばんとう)**:「みちしるべ」とも呼ばれ、道案内に建てられたものである。個人の往来が多くなる元禄時代から増え始めめるが、時代参りや旅が盛んになる文化承化時代には、庚申塔や馬頭碑などを兼ねたものが現れる。

●**道標(じゅんぱい)**:既に、道札を終えたあと記念して建てたもので、そのままは百面・快父・返東の計12ヶ所の御食堂塔禮のものである。追くは、出羽三山・四国八十八ヶ所の記念塔もある。

●**供養塔(きょうやうとう)**:植木供養塔は、有馬の長青寺境内にある。供養塔は芦屋区の農業生産組合が建てたもので、毎年、3月の彼岸過満に供養祭を行っている。花供養塔は、泉福寺境内に泉福花生産組合が建てたものである。毎年、8月17日に花供養が行われる。

●**道祖神(どうそじん)**:道路の要衝や村の入口などに建てられるもので、道中の交通安全や、村内を魔除から守る神であった。区内の平には「土祖大神」と刻んだ道祖神があり、1月15日には、この前で「どんど祭」が行われる。

●**地蔵尊(じぞうそん)**:普段が盛んな地方で信仰された養蚕の神。県下一円では、安政5年に結ばれた田代修造商約定。外港に輸出する代表的な商品として養蚕が盛んになった。宮前区では明治時代から大正時代にかけて盛んになった。豪華な塔は珍しく、土崎神社に1基建てられている。



お問合せ  
☎.044-856-3136  
宮前区役所企画課

